



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和7年1月号(第11号)
令和7年1月7日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心を持ち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

基礎基本

校長 藤田 昌一

皆様には、よい年を迎えられたことと存じます。本年もよろしくお願ひいたします。

＊

昨年12月14日(土)～15日(日)に、群馬県の鹿沢スノーエリアで、埼玉県SAJ指導員講習会に参加しました。これは、スキー指導員としての資格の維持・継続のために義務付けられている講習です。

ブロック技術員という講師が、1グループ15名ほどを担当します。1日目は、基本ポジションの確認と、プルークボーゲン(板をハの字にした滑り方)の確認にほとんどの時間を費やしました。受講生は、ポジションの確認の段階から、講師のダメ出しを受けます。さらに、プルークボーゲンでも、ほとんどの受講生が、講師の求める滑りができず、何回も繰り返しポイントについてレクチャーを受けます。

参加者は、指導員もしくは準指導員で、世間一般では「上手」と言われる人のはずです。それが、初心者～初級者の滑り方で、講師から合格をもらえず、苦勞しました。

＊

このことを通して、「基礎の大切さ(基本に立ち返ること)」に改めて気付きました。今回の講習で講師が求めた技術は、「よいポジションで、スキー板にしっかりと力をかけて動かすこと」逆に言えば、「スキー板にしっかりと力をかけて動かすためには、よいポジションが必要」ということに尽きます。受講者は、知らず知らずのうちに、自己流の滑り方になっていたのです。

普段のゲレンデでは、スピードを出して気持ちよくパラレルターン(足を平行にした滑り方)をしている人ばかりなのですが、少しずつ自分の感覚がずれて、動きにクセが出るようになっていたのです。今回、基礎の部分のみっちり矯正したおかげで、2日目の仕上げのパラレルターンでは、私も力強く安定した滑りができたような気がします。

＊

11月30日(土)に、文化センターで「さいたま市小学校管楽器連盟演奏発表会」が開催され、本校の金管バンドが出演しました。ここでも、管楽器連盟会長のあいさつの中で、演奏曲の練習の積み重ねに敬意を表しつつ、「自分の思った通りの音色で演奏したい」「もっと美しいハーモニーにしたい」などの思いや願ひを実現するためには、ロングトーンや音階の練習などの基礎的な練習が必要というお話がありました。

「基礎基本」の大切さは、スポーツや音楽だけではなく、勉強や習い事など、あらゆることに当てはまるものです。今年一年、「基礎基本」を見直し、大切にしていきたいと思ひます。